

診療技術部門新人教育プログラム

A. 初年度カリキュラム

4月1日採用時に約一週間の新入職員研修があります。全職種共通ですが診療技術部門はそのうち2日間参加していただきます。

1. 新入職員研修2日間の主な内容（診療技術部門）

新入職員研修（診療技術部門）共通
医療安全、感染対策の初期講習（全職種共通） 医療安全管理室、感染対策室の専従スタッフからインシデント、アクシデント発生時の対応や感染性廃棄物の取り扱い、針刺し事故時の対応などの講義を受けます。
患者の急変対応（診療部各科室共通） 患者急変時の応急処置、応援スタッフの要請などの実習を受けます。
電子カルテの操作説明（診療部各科室共通） 電子カルテの基本操作と各科室独自のシステムの操作をシステムエンジニアから説明してもらいます。

2. 各科室の基本業務の習得

初年度の約半年間から1年間かけて一人で通常業務ができるように、プリセプターと共に学習していきます。（プリセプターは各種学会の認定資格を有している者が担当します）
プリセプターとマンツーマンでの指導のみではなく、プリセプター以外にも相談できるような体制で指導を実施していきます。

リハビリ研修プログラム（1年目）		
基礎課題	・組織へのコミットメント ・リハビリテーション実施に必要な基礎づくり	
到達目標	・業務に必要な基礎能力を身につける ・指導のもとリハビリテーションが実施できる	
期間	内容	
4月	実務基礎能力	<ul style="list-style-type: none"> 電子カルテの使い方 治療機器の使い方 各部門見学、カンファレンスの参加
5-3月	臨床実践能力	<ul style="list-style-type: none"> プリセプター指導のもと実務開始 カンファレンスや退院前訪問にも同行しチーム医療を学びます 症例発表の実施 急変時対応の練習 各種勉強会や研究会、学会への参加
3月	振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 1年の振り返り、次年度の目標設定（面談）

B. 2～5年目の研修のカリキュラム（各科室）

2年目以降においても、基礎・臨床・教育・研究のSTEPをバランスよくあげていけるように学習していきます。

	STEP 01	STEP 02	STEP 03	STEP 04	STEP 05
基礎	病院組織の機能を知り、職員として自覚を持つ	社会人・組織人としての自覚を持つ		メンバーとしての役割行動がとれる	専門職業人として人間の尊厳に基づいて行動できる
臨床	基本的な知識・技術の習得	助言が多くあればリハビリテーションを実施できる	少しの助言があればリハビリテーションを実施できる	自立してリハビリテーションを実施できる	多様な疾患にも自立してリハビリテーションを実施できる
研究		症例報告ができる	助言が多くあれば学会発表ができる	少しの助言があれば学会発表ができる	自立して学会発表ができる
教育			助言が多くあれば新人や学生を指導できる	少しの助言があれば新人や学生の指導ができる	自立して新人や学生の指導ができる

C. 各専門領域での認定資格の取得やリーダー研修などのプログラム

(診療部共通)

施設認定や診療報酬加算に必要な資格などは病院全体で必要な人数などを検討し、個人の希望も考慮し取得に向けた計画を立てます。また、各職種の学会などで主催する研修会や、国家公務員共済組合連合会が行う学会などにも参加する機会があります。

認定資格	認定学会	人数
心臓リハビリテーション指導士	日本心臓リハビリテーション学会	5名

3学会合同呼吸療法認定士	日本胸部外科学会、日本呼吸器学会、 日本麻酔科学会	5名
専門理学療法士（運動器）	日本理学療法士協会	1名
認定理学療法士（脳卒中）	日本理学療法士協会	1名
認定理学療法士（循環器）	日本理学療法士協会	1名
認定理学療法士（呼吸）	日本理学療法士協会	1名
認定理学療法士（運動器）	日本理学療法士協会	2名
認定理学療法士（褥瘡・創傷ケア）	日本理学療法士協会	1名
協会認定管理者 上級	日本理学療法士協会	1名
地域包括ケア会議推進リーダー	日本理学療法士協会	2名
介護予防推進リーダー	日本理学療法士協会	2名
フレイル対策推進マネージャー	日本理学療法士協会	1名
糖尿病療養指導士	日本糖尿病療養指導士認定機構	1名
福祉用具プランナー	公益財団法人テクノエイド協会	1名
住環境コーディネーター2級	東京商工会議所	1名
摂食嚥下リハビリテーション学会認定士	日本摂食嚥下リハビリテーション学会	2名
NST 専門療法士	日本静脈経腸栄養学会	1名
がんリハビリテーション研修会受講者		10名
臨床実習指導者講習会受講者		8名
健康運動指導士		1名
グラヴィティヨガ協会椅子ヨガ養成講習受講	グラヴィティヨガ協会	1名

AEAJアロマセラピー検定1級	日本アロマ環境協会	1名
急性期ケア専門士	日本急性期ケア協会	1名
博士		1名
修士		4名
藍野大学 臨床教授		1名
藍野大学 臨床准教授		2名
GCI修了		1名

D. 学会活動の支援

- ・ 学術集会への参加
- ・ 研究会等での発表の指導
- ・ 臨床研究の基礎的な指導

発表演題

演題名	氏名	学会名	年度
栄養士と連携した介入が有用であった 重度低栄養を伴う気管支拡張症の1症例	仲野 生花	第32回 大阪府理学療法学会 学術大会	2020
地域在住呼吸器患者における COVID-19 流行 期の状況調査 ～COVID-19 流行前後での身 体活動性の比較～	清水 学	第30回日本呼吸ケア・リハ ビリテーション学会学術集 会	2020
地域在住呼吸器患者における COVID-19 流 行期の状況調査～身体活動性と各指標の関連～	大木 敦司	第30回日本呼吸ケア・リハ ビリテーション学会学術集 会	2020
パネルディスカッション： 骨格筋評価とサルコペニア評価	岩津弘太郎	第6回日本心臓リハビリテ ーション学会近畿地方会	2020
教育セミナー： 再発予防の運動指導-その目標値と効果量-	岩津弘太郎	第57回日本循環器病予防学 会学術集会	2020
Analysis of changes in clinical characteristics of patients with COPD or interstitial pneumonia during a 6- minute walk test	Atsushi Ogi	ERS 2020	2020
心不全患者における退院後早期身体機能低下は心 不全増悪による再入院の予測因子となる	池田 力	第85回 日本循環器学会学 術集会	2021
HFrEF 患者における退院後の左室駆出率と運動 耐容能の推移に関する検討	佐々木宏樹	第27回日本心臓リハビリテ ーション学会学術集会	2021
骨格筋評価とサルコペニア評価	岩津弘太郎	第6回日本心臓リハビリテ ーション学会近畿地方会	2021
基礎からわかる運動時の呼吸循環モニタリング	岩津弘太郎	第5回日本循環器理学療法学 会学術大会	2021
再発予防の運動指導-その目標値と効果量	岩津弘太郎	第57回日本循環器予防学会 学術集会	2021
心不全の予後に関する認知機能は身体フレイルに 影響を受ける	岩津弘太郎	第58回日本臨床生理学会総 会	2021
心臓リハビリテーション開始時の歩行速度で分 類した際に歩行速度の変化に影響する背景因子	大木 敦司	第28回日本心臓リハビリテ ーション学会学術集会	2022
心不全患者の退院時身体機能に対する入院前生 活空間の広さの予測妥当性に関する検討	佐々木宏樹	第28回日本心臓リハビリテ ーション学会学術集会	2022
もし心リハチームに理学療法士がいなかったら？	岩津弘太郎	第28回日本心臓リハビリテ ーション学会学術集会	2022
心不全患者における退院時身体機能に対する入 院前生活状況評価指標の予測能の比較に関する 検討	佐々木宏樹	第26回日本心不全学会学術 集会	2022
レインボー手帳を用いた地域連携	岩津弘太郎	第7回日本心臓リハビリテ ーション学会近畿地方会	2022
超高齢心不全患者にも関わらず 併存疾患が少ない患者の特性について	池田 力	第7回日本心臓リハビリテ ーション学会近畿地方会	2022

心不全患者の入院前生活空間と退院時身体機能の関連についての検討	佐々木宏樹	第7回日本心臓リハビリテーション学会近畿地方会	2022
入院期心不全患者における歩行速度の変化に関する実態調査	大木敦司	第7回日本心臓リハビリテーション学会近畿地方会	2022
プロフェッショナルの条件としての臨床研究	岩津弘太郎	第34回大阪府理学療法学会	2022
筋消耗・サルコペニア改善を目的とした循環器理学療法プログラムにおける神経筋電気刺激療法の位置づけ	岩津弘太郎	第6回日本循環器理学療法学会学術大会	2022
心不全患者における入院による歩行能力低下の関連因子について	池田 力	第87回 日本循環器学会学術集会	2023
パネルディスカッション：各職種の視点で考える心不全の栄養サポート	岩津弘太郎	第87回 日本循環器学会学術集会	2023
心不全患者における入院による歩行能力低下の関連因子について：年齢別での検討	池田 力	第29回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	2023
入院期心不全患者における歩行速度の実態調査：歩行速度をアウトカムとする際の介入対象集団の検索	大木敦司	第29回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	2023
入院前生活空間の広さは心不全患者の退院時身体的フレイルの予測精度を改善する	佐々木宏樹	第29回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	2023
シンポジウム：心不全患者に対する地域連携の重要性 一枚方公済病院での取り組み	池田 力	第9回日本心臓リハビリテーション学会近畿地方会	2023
入院期心不全患者におけるShort Physical Performance Batteryの推移に関する実態調査	佐々木宏樹	第27回日本心不全学会学術集会	2023
急性心筋梗塞後の集団運動療法参加によって運動に対する行動変容がみられた1症例	持田璃穂	第72回共済医学会	2023
入院期心不全患者における歩行速度の変化の予測モデルの探索：決定木分析を用いた検討	大木敦司	第88回 日本循環器学会学術集会	2023
個別性のある運動計画が行動変容に繋がった小児・思春期糖尿病患者の1例	大木敦司	第10回日本糖尿病理学療法学会学術大会	2024
心不全患者における退院時歩行速度と予後の関連	大木敦司	第8回日本循環器理学療法学会学術大会	2024
循環器理学療法学会委員会企画 レジストリー委員会 J-Proof HF最新エビデンス～中間解析結果報告～：心不全患者における退院時歩行速度の新たなカットオフ値の探索	大木敦司	第8回日本循環器理学療法学会学術大会	2024
心不全患者において入院前生活空間の広さは予後予測因子となる	佐々木宏樹	第30回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	2024
入院期心不全患者におけるShort physical performance batteryの改善が良好である症例の特徴	佐々木宏樹	第8回日本循環器理学療法学会学術大会	2024
消化器がん術後にサルコペニアとなる症例の特徴	池田 力	第74回共済医学会	2025

心不全患者の地域連携への取り組み	池田 力	第23回大阪病院学会	2025
Noninvasive Swallowing Function Assessment Using an Earphone-type Sensor:Validation through Simultaneous Measurement with Swallowing Sounds	吉本拓登	生体医工学シンポジウム	2025
心不全患者における入院前生活空間の広さの予後予測精度の検討	佐々木宏樹	第31回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	2025

論文等

タイトル	氏名	学会・雑誌名
Neuromuscular electrical stimulation may attenuate muscle proteolysis after cardiovascular surgery: A preliminary study	Kotaro Iwatsu.	Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery,153(2): 373-379
心大血管理学療法における神経筋電気刺激療法	岩津弘太郎	理学療法学 特集号
心血管理学療法に必要な臨床指標とその意義～病歴・検査所見・身体所見について～	岩津弘太郎	理学療法学 第44巻 Suppl. No3 88-89 頁
循環器疾患への電気刺激療法	岩津弘太郎	理学療法学 第44巻 Suppl. No3 123-124 頁
心臓リハビリ代替法としての神経筋電気刺激療法：現況と将来展望	岩津弘太郎	循環制御 第38巻 第2号
高齢者の運動の実際～呼吸器疾患・循環器疾患を考慮して～	岩津弘太郎	Physiotherapy OSAKA Vol.46 p31-37
心不全患者の骨格筋機能障害に対する神経筋電気刺激療法の理論とエビデンス	岩津弘太郎	心臓リハビリテーション 25(1): 1-20
心不全患者において社会的孤立は退院後心不全増悪による再入院の予測因子となる	池田 力	心臓リハビリテーション 26 (1) :107-113
【ガイドラインでは教えてくれない 肺炎の治療とケア】(Part.3)高齢者肺炎に特有の問題 高齢者肺炎の理学療法と栄養療法 枚方公済病院での取り組み	清水 学	みんなの呼吸器Respica 17 巻(6)Page908-910(2019.12)
フレイル・サルコペニアの簡便な見分け方、その対策	岩津弘太郎	診断と治療 108 巻 (6) Page773-778 2020.06
心不全患者における心臓リハビリテーション(急性期～慢性期)	岩津弘太郎	Nutrition Care 13 巻 (3) Page253-259 2020.03
Clinical benefit of combined assessment of physical and psychological frailty in patients with heart failure.	Kotaro Iwatsu	Journal of the American Geriatrics Society,70(7):2070-2079.2022
Gap in the prognostic impact of short physical performance battery among phenotypes of heart failure.	Kotaro Iwatsu	International Journal of Cardiology,361:85-90.2022

看護師にもできる支援を紹介★施設別・運動療法How to Do : 1 リハビリテーション室での運動支援	大木敦司	糖尿病ケアプラス Vol22,No.4,2025
Noninvasive Swallowing Function Assessment Using an Earphone-type Sensor:Validation through Simultaneous Measurement with Swallowing Sounds	Takuto Yoshimoto	Advanced Biomedical Engineering

